

## イチゴの良質な苗生産に向けた育苗技術の向上

### 1 対象

イチゴ経営体 11 戸  
うち重点指導対象 3 戸（名古屋市、東郷町）

### 2 背景

管内のイチゴ経営体では、本ぽに定植する苗を 9 月から 10 月にかけて購入するのが主流だが、春に親株用の苗を購入して自家育苗を行う経営体も存在する。苗の品質は、定植後の生育に大きな影響を与えるほど重要な要素だが、R 3 年作はそれぞれ苗の徒長や過湿による根傷み、病害虫の発生がみられ、定植株数が不足するなどの影響がみられた。

そこで今年度は、良質な苗を必要数確保できることを目標に、3 戸のイチゴ経営体とともに原因究明及び対策に取り組んだ。

### 3 活動の内容

3 戸に対して、それぞれ R 3 年作を振り返りながら親株育成及び育苗時に発生した課題について話し合った。その結果、主な課題は、ある経営体では苗の徒長、かん水時のかかりムラ、親株の肥培管理であり、また別の経営体では過湿による地際部の褐変等、経営体により抱えている課題が様々であることが分かった。

その後、各経営体と農業改良普及課がお互いに意見を出し合いながら、新たな資材の使用やかん水管理方法の変更など、改善に向けた取組内容を決定した。親株育成に関する取組は 4 月から、育苗に関する取組は 7 月から行われ、普及課は円滑に取組が行われるよう支援するとともに、定期的に苗の生育状況を確認した。

#### <育苗上の主な課題>

- ① 親株の肥培管理
- ② 苗の徒長
- ③ 培地の水持ち
  
- ④ 苗の地際部の褐変（培土の過湿）
- ⑤ 炭疽病の予防



#### <解決に向けた取組内容>

- ① 葉柄中硝酸態窒素濃度の把握
- ② 徒長抑制資材の使用
- ③ 底面給水シートの利用  
スプリンクラーと手かん水の併用
- ④ 苗の生育に合わせたかん水の実施
- ⑤ こまめな葉かきの実施

### 4 活動の成果

各経営体とも、育苗の課題に向けて取り組んだ結果、培地の水分が以前よりも安定し、苗の萎れや腐敗が大幅に減少した。さらに底面給水シートを使用した経営体では、かん水頻度が減少し、作業時間の削減にもつながった。また、こまめな葉かきにより風通しが改善された結果、病害の発生も抑制できた。

各経営体の生産苗数は、定植計画株数の 103~107% で、定植後に発生した補植にも十分対応できた。



揃いが良く良質な苗